月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.44 2012 3/1

◉iPadサイズ（と、ほぼ同じ）

中之島ホテル史

ナカノシマ大学

「大阪の古地図の味わい方」

本渡 章

（作家）

申し込み受付中!

島民Vol.44.indd 2 12/02/22 3:48

大阪の迎賓館

大阪ホテルは一時、経営者交代により大阪クラブホテルと名乗る。ホテル前には人力車が。明治時代後半まで大阪市内の交通手段は人力車が中心。写真提供／大阪市都市工学情報センター

中之島とホテルの130年史

中之島とホテルの歴史は古く、最初に開業した自由亭ホテルは、大阪市中央公会堂や日本銀行大阪支店よりも古い。その後、数々のホテルが生まれては消えつつも、現在もリーガロイヤルホテルをはじめとするホテルが存在することは、中之島が近代以降の大阪において「迎賓館」としての役割を担ってきたことを物語る。

明治維新直後から、市役所や図書館、公園などが次々に中之島に整備されていった流れを、大阪府立大学教授の橋爪紳也氏は、「大阪が近代的な都市になるために必要なものが造られていった」と解説する。特に国内外の賓客をもてなすことのできる場所として、ホテルもまた近代都市が備えておくべき〝必須アイテム〟の一つだったのだろう。

また、少し時代は下るが、橋爪氏が著書『京阪神モダン生活』の中で取り上げている大阪ホテルのパンフレット（昭和6年）の英語の案内には、「主要駅から人力車でわずかに八分の場所にあると利便性を強調」している。大阪駅からほど近い場所であることも、中之島にホテルが建てられた理由だろう。

取材文／道田惠理子（本誌）

外国人にも開かれた大阪ホテル。

大阪ホテルは電燈とスチーム暖房を完備し、英語を話す従業員もおり、大阪唯一外国人が宿泊できる設備を持ったホテルだった。上の写真は大正時代の中央公会堂とその周辺。中央公会堂の手前（現在、東洋陶磁美術館が建っているあたり）に見えるのが、初代の大阪ホテル。

料理店が開業した自由亭ホテル。

自由亭は文久3年（1863）に長崎のオランダ公使の調理師・草野丈吉によって開業した日本最初の西洋料理店（当初は「良林亭」と名付けられる）。後藤象二郎、岩崎弥太郎、五代友厚などに愛用され、明治維新後、五代が外国事務局判事・大阪府権判事となったことをきっかけに大阪にも店を開く。次いで、京都、神戸にも自由亭を開店。

1881年（明治14） ◆中之島公園に**自由亭ホテル**開業

1895年（明治28） ◆自由亭の洋館部分を改装し**大阪ホテル**と名称変更

1899年（明治32） ◆大阪ホテルは**大阪クラブホテル**と名称変更

1901年（明治34） ◆大阪クラブホテルは火災により全焼。2年後、大阪ホテルに名を戻して再建

1924年（大正13） ◆大阪ホテルは再度の火災により全焼。すでに公園となっていたため再建許可がおりず閉館

1935年（昭和10） ◆現リーガロイヤルホテルの前身である**新大阪ホテル**開業

島民Vol.44.indd 3　12/02/22 3:48

新大阪ホテル接収時、1階の特別食堂にはアイゼンハワー元帥一行の姿も。

昭和21年（1946）2月、新大阪ホテル玄関には「第25歩兵師団将校宿舎」を明記する英文の看板が掲げられた。

接収が解除となったのは昭和27年（1952）6月で、営業を再開したのはその2ヶ月後。再開時には多くの人で賑わった。

戦後、GHQによって接収。

終戦後、大阪でも都心の焼け残った建物の多くが米進駐軍により接収された。中之島ではダイビルなどのほか、新大阪ホテルも将校の宿舎として接収され、一般の営業は禁止、政府から受ける接収ホテル賃貸料が唯一の収入となる。

1945年（昭和20）
◆第二次世界大戦勃発により、新大阪ホテルは**米進駐軍将校宿舎**として接収される

1952年（昭和27）
◆接収解除により、新大阪ホテル営業再開

1958年（昭和33）
◆大阪グランドホテル（リーガグランドホテル）開業

1965年（昭和40）
◆新大阪ホテルが新たに**大阪ロイヤルホテル**開業

1970年（昭和45）
◆大阪キャッスルホテル開業

1973年（昭和48）
◆新大阪ホテル閉館
◆大阪ロイヤルホテルはロイヤルホテルに名称変更し新館を完成

1975年（昭和50）
◆ロイヤルNCB会館（リーガロイヤルNCB）開業

1979年（昭和54）
◆ホテル京阪天満橋開業

1981年（昭和56）
◆中之島イン（リーガ中之島イン）開業

1984年（昭和59）
◆ANAクラウンプラザホテル大阪（大阪全日空ホテル・シェラトン）開業

1997年（平成9）
◆ロイヤルホテルはリーガロイヤルホテルに名称変更

2007年（平成19）
◆アパホテル肥後橋駅前開業

2008年（平成20）
◆リーガグランドホテル閉館

豊かな時代に応えた大阪ロイヤルホテル。

戦後の高度成長期に入り、人々が「豊かさ」に目をむけるようになるとホテルは順調に業績を伸ばし、客室不足となってきた。昭和39年(1964)の新幹線開通や東京オリンピック、また、昭和45年（1970）の大阪万博開催を見据え、新大阪ホテルは中之島5丁目に新ホテルを建設。新聞公募により「大阪ロイヤルホテル」と名付けられた。8年後には新館が完成し、これが現在おなじみのリーガロイヤルホテルとなる。

昭和41年（1966）4月、ロイヤルホテルにて天皇皇后両陛下の行幸を見送る人々。

意匠設計は文化勲章受章の吉田五十八。4つのバーと7つのレストランがあり、1階のリーチバーの内部設計には河井寛次郎をはじめ「民芸」の名匠が参画した。

政財界の熱き情熱のもとに新大阪ホテル登場。

大正～昭和初期、大阪が人口日本一の大大阪時代に、大阪で大博覧会開催計画が持ち上がる。それに合わせて、「関西に賓客を迎えるための迎賓館」として、当時の関一大阪市長を筆頭に大阪商業会議所を中心として近代ホテル建設推進の声があがる。大正15年（1926）から新ホテル相談会が開催され、昭和10年（1935）、中之島3丁目の現・朝日新聞大阪本社西隣に開業。名称を「新大阪ホテル」に決め、新会社設立には大阪財界名士が名を連ねた。ちなみに博覧会は昭和3年開催予定だったが、計画は途中で中止された。

川べりに建つ新大阪ホテルはペネシアンゴシック式の豪奢な外観。

島民Vol.44.indd 4 12/02/22 3:48

中之島のホテルと街をつなぐ「おいしい話」。

取材・文／中島 淳　道田惠理子

新大阪ホテルは、開業当初から「本格的な西洋料理が食べられる」と食通たちの間で評判だった。常食堂と呼ばれたメインダイニングでは、前菜にフォワグラ、メインは牛フィレ肉のステーキと本格的なものだった。定食2円、宴会料理5円という当時としては高級な値段にもかかわらず、宴会の予約が絶えなかったという。その流れを受け、昭和40年（1965）に大阪ロイヤルホテルを開業し、昭和48年の新館開業時にはフランス人シェフ、アンドレ・ルイ・バンドルーをレストラン［シャンボール］の初代料理長に招き、本場の調理技術や食文化が中之島に持ち込まれる。現在、大阪の街で人気のフランス料理店には、そんな厨房を経た料理人が少なくない。「なんでも旨い」大阪の街に、ホテルが果たした功績は大きい。

レストラン［シャンボール］初代料理長アンドレ・ルイ・バンドルー氏（前列右端）。

クリスマスには七面鳥などの料理も出されていた新大阪ホテルの宴会場。

◆おいしい話Ⅰ
ホテルの厨房から街場の店へ広まった西洋料理。

電車急行「なにわ」の食堂では新大阪ホテルの定食やアラカルト、軽食のほかに、にぎり寿司も用意されホテルの味が旅のシーンでも楽しめた。

［リーガロイヤルホテル］で8年修業。福島の人気フレンチ［大西亭］の大西敏雅さん

宴会場で3年、［シャンボール］で5年働きましたが、先輩から「シャンボールはロイヤルホテルの中のフランスだ」と言われ、配属になった時は嬉しい反面、メニューも全てフランス語なので、ついていけるかという怖さもありましたね。ただ、キャビアやトリュフなどの最高級の厳選食材に触れることができたり、鍋洗いひとつにしても全てが勉強になりました。今も〝ホテル出身〟であることに誇りを感じています。

大西亭

18歳でロイヤルホテルに入社し、26歳で地元福島にて独立。昨年秋に、同じ福島区でもより下町エリアに移転。手抜きなしの本格フレンチが街場価格で食べられる。●大阪市福島区鷺洲1-9-18　☎06-6451-0740　12:00PM ～ 1:30PM（LO）　6:00PM ～ 9:00PM（LO）　月曜・第3日曜休

島民Vol.44.indd　5　12/02/22　3:48

◆おいしい話Ⅱ

老舗料亭「なだ万」と中之島界隈のご縁。

江戸時代から続く老舗料亭が花を咲かせたのも、また中之島のホテルであった。大正11年（1922）、中之島の対岸に位置する北浜2丁目に食品デパート・大食堂兼洋式ホテルとして登場した灘萬食料品店は、後のロイヤルホテルに出店する日本料理の「なだ万」のルーツ。

資料によると、初代・灘屋萬助が料亭「灘万」の母体というべき料理屋を大阪で創業したのは天保元年（1830）。その後、明治4年（1871）には長崎料理を基調とした大阪料理の店「灘万楼」を開業した。中之島の界隈には、かつて「天満青物市場」「雑喉場魚市場」「堂島米市場」の大坂三大市場があり、魚にしても野菜にしても新鮮な食材が安く手に入る。素材の味を活かすことが基本の日本料理が開花する下地が、中之島にはあったと言える。

「なだ万」の資料では、ベルサイユ条約調印のため、西園寺公望公から訪欧の随行料理人として、灘万の三代目・楠本萬助が選ばれ、この功労により西園寺公とゆかりのある住友本家よりイゲタ紋の使用を認められる（左上の商標、難波橋がライオン橋とよばれるライオン像も描かれている）。

ホテルの味を家庭料理に生かしたいと目をつけたのは、雑誌『暮しの手帖』の創刊編集長・花森安治。花森は帝国ホテルにいた常原久彌が昭和33年（1958）、中之島の新朝日ビルに開業した大阪グランドホテルの料理長に就任した際に、「家庭でも気軽に西洋料理を作れるような連載」を依頼する。

毎回、『暮しの手帖』スタッフが来阪し、まずは花森が常原と「鶏ならば何を作るか」について細かく聞き出し、メニューを決めた後にすぐ調理が始まり写真を撮り試食も…という手順で進行した。

毎回1万字以上に及ぶ、常原の肉声調の原稿は、すぐに『暮しの手帖』の人気連載になった。「料理教室ですらめったに喋らない人なのに…」と関係者は驚いたが、花森のこれまでの常原との関係、当日の話、そして調理中の独り言も聞き漏らさぬ注意力に筆力が加わった賜物である。昭和36年（1961）から始まった連載は常原が大阪ロイヤルホテルの料理長に就任してからも続き、昭和49年に暮しの手帖社から『一皿の料理』が定価2700円で発刊。高価な本がヒットし、「ホテル発家庭料理本」の先駆けとなった。〝お手軽レシピ〟とは真逆の本である。

左／常原久彌（左）と米津春日　下／『一皿の料理』より。右は「ロシアふうカツレツ」。左は「ステーキ・タルタル」

◆おいしい話Ⅲ

ホテルの味を食卓に届けた家庭用料理本。

『暮しの手帖』1961年冬号より。「いまの言葉でいうと、ちょっとムードを出す、というわけです」という表現が新鮮。

島民Vol.44.indd 6　12/02/22 3:48

リーガロイヤルホテル・リーチバー

その上質さは、大阪を世界へ羽ばたかせようとした古き良き時代の経営者のプライドだった。

取材文／岩田雅希　写真／田村和成

リーガロイヤルホテルの「リーチバー」は、中之島とホテルの関わりの歴史を知る上でとても興味深い。昭和40年（1965）、大阪ロイヤルホテルの開業と共に、社長の山本為三郎が「日本の大阪から世界の大阪に飛翔するために、ささやかなりともお役に立ちたい」との思いで作った特別な場所だ。

無骨なダークブラウンの柱梁と優美な曲線を描く曲木の椅子が、英国カッテージ風バーの落ち着きを構成する。経年の艶と木目が美しいオークの床に、使い込まれたベルシャ絨毯。しかし、このバーを特別な空間にしているのは、素材で埋め尽くされた饒舌な壁だ。

まず目に入るのは藤蓆（とうむしろ）の壁。竹の斜め遣いは日本を愛する異国人の仕業を思わせる。バーの奥でヘリンボーンに張られたレンガの壁がオーソドックスな落ち着きを醸し出すのに比べ、茶室のような遊び心が絶妙だ。それもそのはず、このバーの基本構想は英国人陶芸家バーナード・リーチ。そして彼の着想を具体の設計に昇華させたのは近代数寄屋建築の巨匠・吉田五十八なのだ。

中ほどには民藝の名匠たちの作品が飾られているが、ショウケースに美術品を展示する手法は当時の喫茶店でもよく見られた。空間に格を与える演出だが、ここでは表情豊かな壁の一部としてあり、あくまでさりげない。同じく壁のステンドグラスは、カウンターの中の大きな石貼りの柱と共に、強烈なアクセントになっている。これだけ盛りだくさんなのに、不思議と居心地よく敷居の高さを感じさせないのは、ごつめの梁と重量感のあるアイアンのシャンデリアだけの素っ気なくシンプルな天井が、塩梅良く引き算となっているからだろう。

あまりにも上質な場所は、不勉強な者にも知らず伝わる品格を備えながら、ウンチク無用で居心地がよい。街の未来を見据えた実業家の大阪を誇る精神が、タイムカプセルのように中之島に残された。世界の大阪への飛翔を静かに思うべき素敵な場所があることは、実に島民冥利に尽きる。

◆ディテールを追え！

素材感のある壁。

「この壁は藤蓆に、この壁はレンガに」と、思う通りのことを建築家が100%適えてくれたことが愉快だったとバーナード・リーチ。無理なことなら受け入れないが「リーチ君の言うことが非常にいいんだ、好みが」と吉田五十八。たぐいまれなる贅沢な相乗効果がここに。

灰皿まで美しい。

グラスの存在感に負けない分厚くて大ぶりな灰皿は、見るだけでなく、テーブルで触れることのできる民藝作品。内側の美しいグリーンはイギリスのジン、タンカレーのボトルを砕いて焼き込んだそう。長い歴史の中で何度も作り足され、初期の作品は一つだけ残っている。

曲木の椅子。

英国のカッテージ風バーと謳われる空間を演出する、重要な脇役であるウィンザースタイルの椅子。明治末創業の秋田県の木工工房で一つずつ手作りされて以来、修復されながら大切に使い続けられてきた。磨かれた艶やかな光沢と緩やかで優美な曲線が魔法のように、「古さ」を「変わらぬ価値」に変えている。

リーチバー

リーガロイヤルホテル1F
11・00AM〜0・00AM（ラストオーダー11・45PM）
☎06・6441・0983

島民Vol.44.indd 7　12/02/22 3:48

アートの発信 いま・むかし。

取材・文／道田惠理子（本誌）

大大阪時代、海外の賓客をもてなす迎賓館としての役割も担ったホテルは、館内の美術品も目を見張るものがあった。特に、政財界の肝いりで誕生した新大阪ホテルには至る所に絵画が飾られており、その多くは住友ビルディング（現三井住友銀行大阪本店）を手掛けた建築技師・笹川慎一氏の協力によるものだった。笹川氏は同ホテルの内部意匠を担当し、美術愛好家でもあったことから、自ら交流のあった画家達の作品を集めさせたのだ。

昭和48年（1973）刊行のロイヤルホテル新館完成記念本『大阪讃歌』の中で、当時、東大名誉教授の脇村義太郎氏は「大阪の宿」と題して、こんな寄稿をしている。

「新大阪ホテルこそ『絵のあるホテル』の名にふさわしいものであろう」「藤田嗣治、梅原龍三郎、安井曾太郎、小磯良平、小出楢重（略）などである。（略）作品は1930年代という、これらの人々のよい時代のものばかりで、しかも代表作といえるような大作がいくつもふくまれている。こうした絵を一つ一つゆっくりながめていると、旅の無聊も疲れも忘れることができる」

くつろいだ雰囲気の中で、世界的な作品を間近で見る贅沢こそが、ホテルが「迎賓館」と呼ばれていた時代を彷彿させる。

迎賓館を飾る名画たち。

［絵画解説］
リーガロイヤルホテル
管理部 施設課 支配人
北野好則さん

小出楢重「周秋蘭立像」
@メインラウンジ

昭和3年（1928）に中国人の踊り子をモデルに描かれ、小出画伯はこの3年後に生涯を終えます。笹川氏と画伯は芦屋のアトリエも設計担当するなど親交は密接だったようで、新大阪ホテル開業準備時、ご遺族から譲り受けたものです。集められた多くの絵画で、開業当時にすでに故人となっている方の絵はこの作品だけです。

岡本神草「婦女遊戯」
@メインラウンジ東側壁面

神戸生まれの日本画家・岡本神草氏の晩年の大作。デカダン的雰囲気を漂わせる女性像を描くと、注目されていました。惜しくも38歳で急逝されます。この作品は昭和7年（1932）に帝展に入選した画伯の代表作の一つ。新大阪ホテルの1階にあった頃は、別の作家の作品と認識されていましたが、昭和63年（1988）岡本画伯の作品であることが判明し話題となりました。

安井曾太郎「薔薇」
@ロイヤルスイート

梅原龍三郎氏と共に昭和期を代表する洋画家・安井曾太郎氏による昭和9年（1934）の作品です。19歳の時にフランスへ留学し、セザンヌに大きく感化を受けた画伯は、帰国後「安井様式」と呼ばれる明快清新な画風を見出します。人物画が多いですが、花では薔薇が代表的な作品です。色彩の強いコントラストと勢いのある筆跡が息づいています。

今も受け継がれるアートの精神。

リーガロイヤルホテルでは、ご近所の国立国際美術館での展覧会開催を記念して、草間氏の初公開の作品「明日咲く花」をロビーに展示中。異彩を放つカラフルな水玉模様の巨大なオブジェが出迎えてくれる。また、各レストランでは水玉にちなんだメニューも。「オールデイダイニング リモネ」の水玉模様のオムライスは必食。　リーガロイヤルホテル☎06-6448-1121（代）

「草間彌生 永遠の永遠の永遠」
4月8日(日)まで
国立国際美術館にて開催中。
☎06-6447-4680

島民Vol.44.indd 8　12/02/22 3:49

石原裕次郎、ノムさん、江夏、白い巨塔…

映画・小説のホテル@中之島は、華やか、かつ濃すぎる。

文／中島 淳（本誌）

裕次郎、ホテル前で迫真の演技

昭和37年（1962）に封切られた石原裕次郎&浅丘ルリ子の映画『憎いあんちくしょう』は、マスコミの寵児であるタレント・北大作役の裕次郎が熊本の山村にある診療所に東京からジープを自分で運転して運ぶ、日本列島の西半分を縦断するロードムービーだ。

道中、唯一の大都会と言えるのが大阪。屋根なしジープに乗った裕次郎が大阪駅（懐かし3代目駅舎）を通るシーンでは当時の劇場なら大歓声が上がったはず。重要な場面は、彼のマネジャー兼恋人役のルリ子が「予定を全部キャンセルしてこのまま九州まで行ったら仕事なくなるわよ」と止めるのも振り切って「俺は行くぜ」と突き放す新大阪ホテル前。恋人もごった返す報道陣も置き去りにして裕次郎は西へと走り去る。残されたルリ子が客室で泣き崩れるシーンも長回しで追う。新大阪ホテルが劇中に登場する日本の風景とは対照的に豪華なのも蔵原惟繕監督の狙いで、「庶民が泊まるところやない」感をイヤというほど見せつける。

ホテルが悲劇性を演出した『白い巨塔』。

新大阪ホテルの「浮世離れ」感で言うと、山崎豊子の『白い巨塔』も負けていない。2回登場するうちの最初は、主人公・財前五郎が所属する浪速大学医学部名誉教授・滝村恭輔の喜寿の会。文化勲章受章者で大ボスのカクテルパーティーとあって、出席者も「国立大学の学長、医学部長はもちろん、知事、市長、商工会議所会頭をはじめ、有力財界人、大阪選出の衆、参院議員」と華々しい。財前はパーティーの案内係を務めつつも、「近い将来あのメイン・テーブルに」との野心を隠さない。

2度目は同じ新大阪ホテル3階の大広間だが、財前自らがパーティーの主役である。案内役当時を振り返り、「僅か三年間の間に教授になり、学術会議会員になった自分の栄達を考えると、こみ上げてくるような歓び」の絶頂にいる様を描くが、その華やかさが結末の悲劇性を予感させていて、実に山崎豊子らしいスペクタクルな舞台設定だ。

野村と江夏は中之島でも名コンビ。

中之島のホテルの〝華やかさ〟を愛したのは、今も野球評論家として活躍する野村克也氏。川上健一『サウスポー魂〜小説・江夏豊投手』に登場する、昭和51年（1976）秋に南海ホークスの監督を解任された際のエピソード。

「あのロイヤルの記者会見の席場借りたのはおれやからね。あの時、ムース（引用者注・野村監督）はちょっと東京に行って、帰ってきたら記者会見やるから場所を作ってくれちゅうわけよ。『場所、どこに作るがね』『ロイヤルにしよう、ロイヤル』ムースはまたロイヤルが好きで、一流が好きやから」

野村と江夏。70年代の奇跡と言えるバッテリーは中之島でも華開いた。

中之島のホテルには絢爛さが不可欠。

これらのやや脂っこい華やかさに比べれば、司馬遼太郎が開高健と最後に語り合った「リーチバー」での思い出（「開高健への弔辞」より）は一服の清涼剤の如し。またバブル期の〝キャリア女性〟を描いた山崎洋子の『ホテルウーマン』は、「大阪城公園のすぐ近くにオープンした」ホテルタカトオ大阪と、そのライバルである「格式の高いパーティーや式典などもほとんど独占している関西一の名門」ノーブルホテルの戦いを描いているが（モデルは言うに及ばず）、ホテルという空間に蠢く人間の描き方がもう一つ淡泊だ。

やはり中之島のホテルには「非日常の華やかさ」がないとアカンと、今なら絶対に再現不可能なリーガロイヤルホテルのメインラウンジでお茶を飲みながらつくづく感じるのであった。

『憎いあんちくしょう』（DVD）
日活／3,135円

『白い巨塔』（全5巻）
新潮文庫／620〜788円

『サウスポー魂』
PHP研究所／1,575円

島民Vol.44.indd 9 12/02/22 3:49

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

明暦３年（1657）に作成された、「新板大坂之図」。大坂城が詳しく描かれ、城下町の様子もよくわかる。

◎今月の授業

古地図と共に
街へ出よう

【古地図】

2012年4月講座

「大阪の古地図の味わい方」

講師／本渡 章（作家）

知れば知るほど奥が深い古地図の世界!
その見方、楽しみ方を、大阪の古地図の第一人者が教えます。

最近、古地図、つまり古い時代の地図が人気だ。古い地図を頼りに東京のあちこちを歩くNHKの「ブラタモリ」は、アンコール再放送される人気だし、３月講座に登場する中沢新一先生の「アースダイバー」も、（ものすごく古いけど）地図を頼りに土地土地の持つ古い記憶をたどる試みだ。

大阪でも古地図関連の書籍がたくさん発売され、地図を頼りにめぐる街歩きも市内各地で盛ん。そんな中、大阪の古地図の第一人者といえば、『大阪古地図むかし案内』をはじめとする著書で人気の本渡章さん。今回はその本渡さんをお招きして、深遠なる古地図世界の楽しみ方を語っていただこう。

一口に古地図と言っても、その種類はさまざま。場所・時代・制作意図によって見た目も描かれ方もぜんぜん違う。本渡さん曰く、「古地図は無くても困らない。でも、無いと淋しい。役に立たない、だけど心をゆたかにする」。実際に古地図を見ながら、その魅力をたっぷりと語ってもらいます！

ほんど・あきら

江戸期の地図を中心に扱った『大阪古地図むかし案内』（創元社）、その続編で明治から昭和初期の『続・大阪古地図むかし案内』などのシリーズが大人気。一人で執筆を手がけた『大阪人』増刊「大阪の古地図で歴史をあるく」が4月2日に発売される。

募集要項

「大阪の古地図の味わい方」

日時／**4月18日**（水）
7:00PM～8:30PM（開場6:30PM～）
会場／中央電気倶楽部
受講料／2,000円（ワンドリンク付き）
定員／100名
主催／ナカノシマ大学事務局
協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学4月講座」受付係　FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
http://www.nakanoshima-univ.com

ケータイからは
こちら！→

お問い合わせ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

島民Vol.44.indd 10　12/02/22 3:49

ナカノシマ大学 NAKANOSHIMA UNIVERSITY 講義レポート

加藤さんは、映画『チャーリーとチョコレート工場』を例に挙げて、工場のようなちょっと怪しげな魅力を持った存在が、街の中にあることの大切さを語った。

ナカノシマ大学1月講座　2012年1月26日(木)

「工場は生きている～大阪のものづくりを考える～」

@Ultra 2nd COFFEE AND DINNER

講師／加藤正文（神戸新聞経済部デスク）
綱本武雄（イラストレーター・地域環境計画研究所）

新年第１回目となったナカノシマ大学１月講座は、神戸新聞の連載『工場は生きている―ものづくり探訪―』（かもがわ出版）で文と絵をそれぞれ担当した、神戸新聞経済部の記者・加藤正文さんと、本誌でもおなじみのイラストレーターの綱本武雄さん。近年、苦境に立たされている地域の製造業だが、まだまだ職人仕事が息づく大阪の街で、今一度ものづくりの現場に光を当て、知られざる工場の可能性と魅力を掘り起こす試みである。

オープニングはなんと本邦初公開、綱本さんが描いた工場画を使ったアニメーション！　まるで映画のような完成度に、会場全体が一気に引きこまれた。自主制作で２日前に完成したらしく、加藤さんは「これを売り出したら、本よりも売れそうな出来映え！」と嬉しい悲鳴（？）をあげた。

2002年から10年間、120ヶ所もの工場を二人三脚で取材してきた息ぴったりのお２人。加藤さんは根っからの工場好きで「10年前は工場にカメラは厳禁だった。でも綱本さんの絵が突破口になった！　地域の工場を紹介できる最高の方法でした」と振り返る。綱本さんは「工場によってそれぞれ一番伝えたいところが違う。それが何かを探ってコツを掴むのに時間がかかりました。デフォルメしたりして魅力がひきだせるよう工夫しました」と、神戸製鋼所や濱中製鎖工業の迫力たっぷりな内部写真を紹介してくれた。

しかし、子供の憧れ森永製菓塚口工場、魔法の杖と呼ばれたパナソニック、西のソニーの異名をとる富士通テンなど、西日本の歴史ある名門工場の相次ぐ閉鎖や生産停止が続くことに寂しさを隠せない。加藤さんは「今、時代は大きな転換期だが、地域に根を生やした工場はずっと生きていくはず」という信念から、大阪へ「愛情をこめてものづくりする人がいる街であってほしい」とメッセージを伝えた。経済効果以外に、毎日ものが生まれ、街のシンボルとして工場は「子供に憧れや秘密や不思議を感じさせ、非常にポジティブな空間」と考える綱本さん。２人のものづくりへの眼差しは、受講生の心に工場熱をしっかり注ぎ込んだ。

最後は会場のオーナーであり、大阪市内のユニーク物件を扱う「みんなの不動産」代表の末村巧さんが「なくなった工場も十分魅力的だ」と援護射撃。大阪市内の「お勧め元工場物件」紹介を行った。クレーンが天井につられたままの部屋、天井高7・5mの吹き抜け物件など、到底住めそうにはないがアトリエや撮影など使い道は未知数の物件揃いで会場は大うけ。「いかがですか？」と末村さんに問われて、「なんとか活かしたい…」と誰もが腰を浮かせたのは、まぎれもなく工場のポジティブな力だと実感した。

会場では綱本さんの作品の原画展も。「描いた職人さんが『オレにそっくり!』と工場に僕の絵を貼ってくれています」と工場で培われた人間関係も素敵だ。

島民Vol.44.indd 11　12/02/22 3:49

淀屋橋odona アイ・スポット通信

淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、
大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。
さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください！

どなたでもお気軽に！ 申し込み不要、会社帰りにふらりと行ける講座も盛りだくさん。

トーク	7	水	7:00PM～9:00PM	**船場大学淀屋橋キャンパス「お店を楽しむ、学ぶ」** **進行:向井光太郎（奈良佐保短期大学）** 小売店、販売店、ショップ、商店など、大阪の街と人を支えるいわゆる「お店」について、「これからの楽しみ方、過ごし方」を考え合います。今回は、参加されるみなさんのお考えや思いをできるかぎりお話しいただき、「お店」から街を楽しくする方法を話し合います。
トーク	12	月	7:00PM～9:00PM	**都市大阪創生研究会presents「港からみえる水都大阪」第4回 此花区探訪** **ナビゲーター:山納洋（大阪ガス）** **ゲスト:このはな区民学芸員によるまち案内の会のみなさん** 大阪のベイエリアは今でも、過去の港としての面影を色濃く残し、その文脈の上に地域の再活性化をはかる取り組みも行われつつあります。この連続ワークショップでは、大阪の港湾エリア各区について、その歴史的背景や現状に詳しい方にお話をうかがいつつ、各エリアの今後の展望を探っていきます。
トーク	21	水	7:00PM～9:00PM	**御堂筋Talkin' About vol.15「大阪のタニマチ」** **ナビゲーター:生駒伸夫（生駒時計店）** 「タニマチ」とは、相撲のひいき筋、そこから派生して芸能・文化の後援者を指します。谷町界隈に旦那衆が多くいたことに由来する呼称ですが、この言葉が示すように、大阪の芸能や文化は民の力、タニマチが支えてきたという伝統があります。今回は大阪のタニマチ精神、寄付文化、文化支援のあり方について話し合います。
トーク	27	火	7:00PM～8:30PM	**月刊島民 淀屋橋編集会議** **第3回「2011年度の『月刊島民』をふり返る」** **話題提供:月刊島民プレス** 2012年に入り、足かけ5年目に突入した月刊島民とナカノシマ大学。昨年4月から今年3月にかけての1年間をふり返ってみます。その上で、今後の新たな展開や特集タイトル、連載ページなどを検討してみましょう。読者の方からのご意見も大歓迎。みなさんふるってご参加下さい！

アイ・スポット　大阪市中央区今橋4-1-1　淀屋橋odona2階　TEL&FAX.06-4866-6803　E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp
開館時間／11:00AM～9:00PM（土・日・祝～8:00PM）　年末年始休　地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結　京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分
http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/page/0000018184.html

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

まだまだ申し込み受付中！

ナカノシマ大学&大阪市立科学館コラボ講座 スペシャルナイト

「星空トーク 江戸時代の大坂・町人科学者列伝」

講師／嘉数次人（大阪市立科学館学芸員）　**ゲスト／髙島幸次**（大阪大学招聘教授）

プラネタリウムの映像で見る！ 朗読で聴く！
こんなにすごかった、大坂のスーパー科学者の物語。

日時／3月17日（土） 6:30PM～8:00PM（開場6:00PM～）
会場／大阪市立科学館　プラネタリウムホール　受講料／1,500円
◎申し込み・詳細はナカノシマ大学ウェブサイトからどうぞ！

島民Vol.44.indd 12　12/02/22 3:49

21世紀の懐徳堂プロジェクト 3月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介。

◎**21世紀の懐徳堂プロジェクトとは…**　ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。

レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の［アートエリアB1］。3月のラインアップはこんな感じ。

4	日	15:00〜18:00	**プロジェクト・ミーティング「大阪のアーツカウンシルを考える公開会議」** 定員:50名程度　昨年末に橋下徹・大阪市長が発した『アーツカウンシル』の導入案。2007年より、このテーマに取組んできた「大阪でアーツカウンシルをつくる会」では、1/9に緊急シンポジウムを開催しました。市政改革の流れのなかで、地域社会の豊かさと国際的な魅力創出という、ミクロとマクロの両面に機能しうる、よりよい広域行政の制度設計のために、現場には何が求められるのか。みなさんと語り合う場になれば、と願っています。
6	火	19:00〜21:00	**オルタナティブカフェ「都市について考える」** 定員:50名程度　「オルタナティブカフェ」は、私たちの暮らしをおもに文化の視点から捉え直し、その意味や形態について考えるための公開型ミーティングです。今回は、社会学者の南後由和氏をゲストにお迎えし、都市のあり方、使い方について様々な視点から皆さんと共に考えたいと思います。
14	水	7:00PM〜9:00PM	**中之島哲学コレージュ／ミルトーク「Fake prayer」** 定員:50名程度 アート作品を鑑賞し感想を語り合いながら、作品が問いかけるテーマについて考えます。今回は「墓」「埋葬」「祈り」をテーマに制作された写真作品「Fakeprayer」をとりあげます。東日本大震災から1年、死を弔うことについて考えます。
21	水	7:00PM〜9:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「尊い犠牲とは?」** 定員:50名程度 東日本大震災から1年たちました。今回のキーワードは「犠牲」です。震災で「犠牲」になったものってなんだろう?　今の生活は誰かの「犠牲」の上にあるの?　「犠牲」について考えてみたいと思います。
22	木	7:00PM〜9:00PM	**シアターカフェ「地域で生きる・演劇で生きる」** 定員:20名程度 今回はプロフェッショナルな演劇人として活動すること、それを目指すことについて考えます。札幌・北九州からそれぞれの地域で活動している演劇人をゲストに迎え、地域で／演劇で生きることについて話します。

会場／アートエリアB1　参加費／全て無料　当日先着順・入退場自由　問い合わせ／［カフェの内容について］大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)☎06-6850-6632　［場所などについて］アートエリアB1 ☎06-6226-4006　※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾　大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

17・24	土	10:30AM〜12:00PM	**「大衆長寿時代のしあわせを考える」権藤恭之(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)** 受講料／3,150円(全2回)　超高齢社会に突入した我が国。大変めでたい一方で長生きへの不安が広まっています。経済環境、身体的機能低下、社会的つながりの喪失、認知症など年をとるごとに負の要素が伴うのも事実です。しかし近年、高齢期においてもこころは発達し、長寿者は様々な障がいや問題を抱えながらもしあわせに生活しているという知見が蓄積しつつあります。本講座では、長寿者を対象にした調査結果や事例を紹介し、長生きはしあわせなのかという問いに答えます。

会場／大阪大学中之島センター　インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html　☎06-6222-5224　FAX.06-6222-5221　問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」「専門分野の講義」&「料理実習」で〝学問するココロ〟が実践的に身につきます。

4/24	火	6:30PM〜9:00PM	**「亜熱帯OSAKA2100」町村 尚(大阪大学大学院工学研究科・准教授)** いつも熱気にあふれるオオサカの街は、もう亜熱帯?　いやいや、地球温暖化によって、これが現実に亜熱帯になりつつあります。またコメ、果樹、野菜など、地球温暖化の影響は、すでに身近な食材の生産や品質に影響しはじめています。講義では最新の温暖化予測の結果を紹介し、生態系や食・生活への影響を考えます。調理実習では、2100年亜熱帯化したオオサカの食を予想してみましょう。 ◎課題料理＝亜熱帯風料理(エビのサラダ　ホットマヨネーズソース、豚肉と安納芋のパイナップルバターソース、ライス、空芯菜のスープ、マンゴーのジュレを予定)

受講料／2,000円　定員／24名(応募者多数の場合は抽選)　会場／大阪ガスクッキングスクール千里　申込受付期間／3月1日(木)〜13日(火)(web申込受付は3月1日(木)12:00PM〜、電話受付は3月6日(火)11:00AM〜　※当選のお知らせを3月14日(水)に全員に発送。申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561　http://www.og-cookingschool.com/

島民Vol.44.indd 13　12/02/22 3:49

大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!（OCC!!）では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。
※大阪カルチャークラスター!!（OCC!!）では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai（common café）まで。

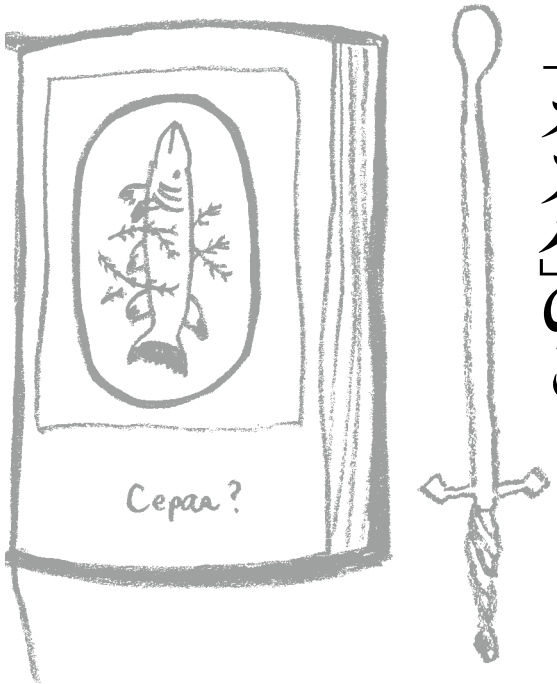
1	木	9:00AM～/ 7:00PM～	**「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇（水辺ガイド）** 参加費:3,000円（レンタル一式+保険+協力金） ☆毎日開催☆年中楽しめるパドルボード!バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!	会場 **D**
3	土	2:00PM～ 5:00PM	**「ガマロを作ろう!」伊東ちひろ（テキスタイルデザイナー）** 参加費:2,625円（税込・材料費込み） 伊東ちひろオリジナル生地で製作。お好きな生地の持ち込みも可能です。（30×30cm）	会場 **G**
10	土	11:00AM～ 1:00PM	**「英米文学のおいしい時間『マクベス』」武田雅子・中東ゆうこ（料理）** 料金:3,800円（テキスト+ランチ） シェイクスピアの名作の関西での公演に合わせて。シェイクスピア時代の料理とは?	会場 **H**
10	土	2:00PM～/ 4:00PM	**「初心者のための 絵画塾～オイルパステル」柿坂万作（画廊喫茶フレイムハウス）** 受講料:2,500円（画材費込み） オイルパステル（クレパス）を使って身近な静物を描いてみましょう。※エプロン、手ぬぐい要持参	会場 **E**
11・14	日・水	11日 11:00AM ～2:00PM 14日 7:00PM ～9:30PM	**「ポーポー屋・料理教室『ちらし寿司・茶碗蒸し』」中東ゆうこ（ポーポー屋）** 参加料:3,800円 和食のおもてなし料理を致します。ちらし寿司をお弁当にして、お花見に出かけませんか?	会場 **H**
13	火	7:30PM～ 9:30PM	**「石原正一のヨミすぎ!～古今東西名作朗読会～」石原正一（役者・作演出家）** 受講料:1,500円 全員を配役し劇世界を楽しむ夜。主人公の言葉から非日常の感覚や気分を得ます。今回は古典落語「地獄八景亡者戯」。	会場 **A**
17	土	12:00PM～ 3:00PM	**「ポルトガルお料理講習会&お食事」クララ・ペイショート（「PORTUGALIA」シェフ）** 参加費:3,500円（講習代・食事代含む） この道40年のポルトガル人シェフが、伝統料理（「エビのアソルダ」「チョコレートサラミ」）を紹介。	会場 **B**
17・28	土・水	17日 1:00PM ～3:00PM 28日 7:00PM ～9:00PM	**「三日月豆の苔玉教室『春に花が咲く、苔玉つくり』」松本佳子（三日月豆・店主）** 参加料:3,800円（材料費+軽食付き） これからの季節に花が咲く山野草が入った苔玉作り。一年を通して植物を育てる楽しみを感じましょう。	会場 **H**
17	土	2:00PM～ 6:00PM	**「フェイスポシェット作り」IRIIRI（にんぎょう作家）** 参加費:4,200円(お茶とお菓子付) 布製顔モチーフのポシェット作りです。お持ちの方は糸切り鋏をご持参ください。	会場 **G**
17	土	2:30PM～ 4:30PM	**「ワイン講座～ボルドー」N.Lee（ボンバール江戸堀・ワインコーディネイター）** 受講料:3,000円 ボルドー右岸の小さいシャトーを巡って。楽しいナビで3～4種のワインをテイスティングいただきます。	会場 **E**
18	日	10:00AM～ 11:30AM	**「カフェでご一緒に春の歌を歌いましょう」西影純枝（ソプラノ）** 受講料:2,000円（ケーキ・コーヒー付） ヴォイストレーニングを受け、春の歌(♪赤い花束車に積んで)、早春賦、春の日の花と輝くなどを伸びやかに歌いましょう。	会場 **F**
18	日	1:00PM～ 4:00PM	**「マクラメ編みのつぶつぶブローチ」松田紗和（手芸作家）** 参加費:3,150円（材料費・税込み） しゃこ結びのテクニックを使ってブローチを作ります。（デザインは多少変更することがあります。）	会場 **G**
18	日	2:00PM～ 4:00PM	**「工作教室Coppa!! -クレヨンで旅にでよう!」ムラバヤシケンジ（アーチスト）** 料金:1,400円 大きな紙に、まずお家を描きましょう。そこから線を引っぱって旅に出かけよう!	会場 **C**
20	祝・火	12:00PM～ 2:00PM	**「ばんどう酒店『自然派ワインとランチの会』」坂東武子（ばんどう酒店）** 料金:3,800円（10種類のワインのテイスティング+ワンプレートランチ） カジュアルにいろんなワインを楽しみながら、ランチをご一緒しませんか?	会場 **H**
22	木	7:00PM～	**「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎（翻訳家）** 参加費:1,500円（お茶付き） アンソニー・ブラウン著『The Shape Game』を読む予定です（変更の可能性あり）。	会場 **I**
24・25	土・日	1:00PM～ 3:00PM	**「春☆ネックレスをつくる会」sun◎sun／金谷叔美（アクセサリー作家）** 参加費:3,150円（材料費・税込み・お茶+お菓子付き） お好きなビーズを選んでワイヤーを使ってかわいいネックレスを作りましょ♪初心者さん大歓迎!手ぶらでOK!	会場 **G**
25 4/22 5/27	日	1:00PM～ 3:00PM	**「中国茶教室『春風　中国茶会』」田華(高級茶芸師・国家資格)** 料金: 12,500円（3回コース） 3種類の中国茶とその淹れ方を教わります。季節の中国茶に合うお茶請けと手作り点心も楽しみ。	会場 **H**

A common café ☎06-6371-1800
B PORTUGALIA（ポルトガル料理レストラン） ☎06-6362-6668
C morrison（studio） ☎080-3113-4816
D 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ☎06-6125-0550
E フレイムハウス ☎06-6226-0107
F カフェ アンドール 本町店 ☎06-6243-0584
G タピエスタイル ☎06-4963-7450
H ポーポー屋 ☎06-6531-7827
I 貸本喫茶ちょうちょぼっこ http://www.geocities.co.jp/chochobocko/

島民Vol.44.indd 14 12/02/22 3:49

中之島ふらふら青春記㉞ 久坂部 羊

仏蘭西料理店「ネスパ」のこと



医学生のころの私はいつも暗い顔をしていて、級友から「デプレッシブ（うつ病的な）」などと呼ばれていた。

ある日、午前中からたまらなく憂うつで、午後は帰って寝ようかと思ったが、空腹だったので、前から『大阪の味』というまいもの屋の本に出ていた店に寄ってみることにした。「ネスパ」という洋食屋で、今はもうないが、堂島の毎日新聞社の北側のビルの半地下にあった。

階段を下りると、薄暗い入口があり、ガラス扉に「仏蘭西料理ネスパ」とレトロな雰囲気で書いてあった。名物は「コロペット」という変わりコロッケ。薄い牛肉や豚肉などでクリームコロッケの中身を巻いて、それをフライにしたもので、コロッケとカツレツのいいとこ取りをしたような料理だった。ソースをかけずそのまま食べる。甘くて香ばしくて、私はなんとなく気分がよくなり、午後からの講義にも出ることができた（うまいもので気が晴れるくらいだから、私の憂うつは大したことはない）。

翌週、私はふたたびこの店に行った。前に来たとき、横の人が食べていたベーコンライスがうまそうだったからだ。注文すると、マスターの奥さんが私を覚えていたようで、ニヤリと笑い、ベーコンライスの端にちょこっと特製のソースをかけてくれた。ベーコンライスはカレー風味の洋風チャーハンだったが、この特製ソースがうまかった。さらっとしているが、風味は濃厚。甘みもあり、ほかで味わったことのないおいしさだった。それで私はこの店がすっかり気に入り、小遣いを節約しながら、ときどき昼食に通うようになった。

当時は午後の休憩を取る店は少なく、ネスパも昼から夜までずっと営業していた。だから私は気ままな学生気分で、午後の3時とか4時とかの中途半端な時間によく行った。ほかに客がいないので、マスターや奥さんと口を利くようになり、徐々に親しくなった。マスターのIさんは、痩せているが声は大きく、赤ら顔に眼鏡をかけ、一見して個性の強い職人気質の人だった。奥さんはひっつめ髪で質素な感じだが、穏やかで愛想がよかった。午後の客のいないときには、空いている席で、Iさんの幼い子ども2人が遊んでいることもあった。

コロペットは登録商標で、いわば料理の特許のようなものらしい。この店にはもうひとつ、「ア・ラ・モード・ブーフ」という登録商標があり、贅沢をして一度注文してみると、小さな陶器の深皿に入った濃厚なビーフシチューが出てきた。肉は噛む前にほどけるほど柔らかで、ごろっと入ったニンジンやジャガイモも野菜そのものの味が濃かった。

ほかにこの店のポタージュスープも変わっていて、具に輪切りのキュウリが入っていた。薄い角切りのニンジンやタマネギなども具になっていて、ミルクの多いさらっとしたスープに、緑、赤、白の色合いがなんとも美しかった。味もほかではない風味だ。

これらの料理はIさんの師匠が考案したもので、今はマスターになったIさんが先代の跡を継いでいるとのことだった。

マスター夫妻と親しくなったあと、私は結婚前の妻をときどきネスパに連れて行った。食事どきに行くと、客が多くて話ができない。それで、時間をはずしておいでと言われた。

研修医になってから、妻と待ち合わせて閉店ぎりぎりに行くと、マスターは店を閉めて、私

島民Vol.44.indd 15 12/02/22 3:49

たちにメニューにない特別料理を作ってくれた。あるときは釣ってきたばかりの鮎をご馳走してくれた。友釣りの囮にする弱った鮎ではなく、天然の活きのいい鮎だと言って、フランス料理風にソテーにしてくれた。

新しくメニューに加えるための試作料理を食べさせてくれたこともある。どんな料理だったか忘れたが、私が一口食べて、「うん、おいしいです」と言うと、マスターは疑わしげな目で私を見て、「先生はアカンわ。何食べてもすぐおいしいて言うから。奥さんのほうが正直で信用できる」と言った。妻は勝ち誇ったように私を見て、意見を求めるマスターに、「これはもうひとつだと思う」とほんとうに正直なことを言って、私を慌てさせた。

あるときはマスターが若い見習いのコックに仕事を教えていた。包丁で器用にリンゴやジャガイモの飾り切りをし、それを見習いにさせる。しかし、マスターは短気で教え方もていねいでないので、見習いはうまくできない。するとマスターが怒鳴る。横で奥さんが、「いつもこうなんよ」とため息をついていた。

次に店に行くと、案の定、見習いのコックはやめていた。

一本気なマスターは、客にも容赦しなかった。ハンバーグを注文した客に、「ソースは」と聞かれ、「味はついてます」と答えたのに、さらにソースを求められたので、一升瓶に入った業務用のウスターソースをデンと客の前に置いてやったなどと話していた。

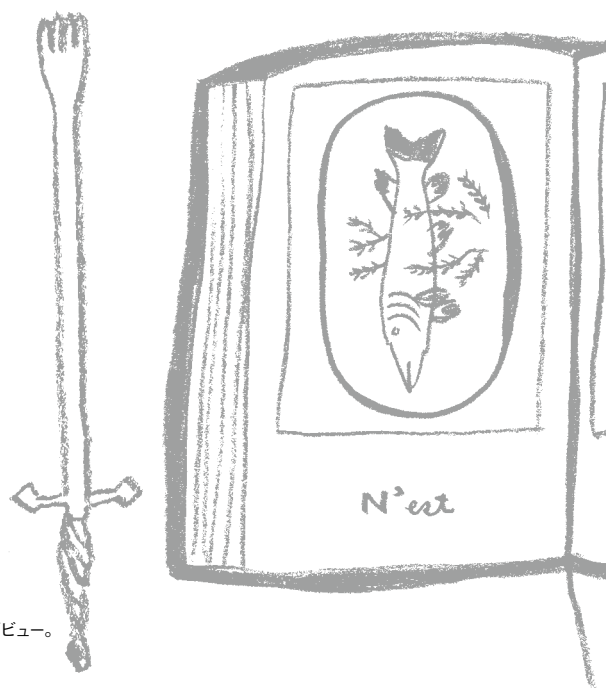
マスターは酒好きで、私たちが夜遅くに行くと、よく飲みながら料理を作っていた。酒量はそうとうだったらしく、ついに肝硬変になって入院した。退院したあと、カウンターに座った私に白目を見せ、「先生。まだ大丈夫か。大丈夫やったら酒はやめる」と言った。肝硬変の末期に出る黄疸は、まず白目に現れると聞いて、私に診断を求めたのだ。だが、その目はすでに蛍光ペンのように黄色かった。「まだ大丈夫ですよ」と言いつつ、「でも、身体がだるくないですか」と聞くと、マスターは「だるいよ。朝も起きられへんくらいや。けど、ここへ来て、コックコートを着ると、身体がしゃんとするんや」と胸を張った。そして、「ほんまに大丈夫か。そうでなかったら、好きなだけ飲んだろう思うて」と言いつつ、ビールを口に運んだ。答えは自分で知っているようだった。

それから間もなく、Iさんは亡くなった。店もなくなったと思っていたら、数年後、たまたますぐ近くの桜橋に移転して営業していることを知った。

訪ねると、Yさんという新しいマスターがいて、同じメニューでやっていた。Iさんの奥さんは久しぶりの再会を喜んでくれ、Iさん亡きあとの苦労を話してくれた。しかし、幸い店は繁盛していて、順風満帆のように見えた。

私はその後、外務省の医務官という仕事に就き、海外勤務になったが、休暇で帰国するたびに、何回かネスパを訪ねた。あるとき、Yさんからショックな知らせを聞いた。奥さんが入院したというのだ。入院先の池田市民病院に見舞いに行くと、奥さんも肝硬変だった。おそらくウイルス性のものだろう。Iさんも同じ病気で、夫婦で感染していたが、アルコールが多かった分、Iさんは悪くなるのが早かったのだ。

奥さんはやつれていたが、元気そうで、また店に復帰できるだろうと思っていた。しかし、次の休暇でネスパに行くと、奥さんは症状が急に悪化して、亡くなったとのことだった。なんともやりきれない気持だったが、どうしようもない。病気は理不尽で容赦がない。いつものことだが、私は無力感を持て余すばかりだった。



くさかべよう　1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。
麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。
現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える
契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。
「今月発売の「小説すばる」に短編「至高の名医」が掲載されます。同誌5作目の短編で、
そろそろ単行本になるかもしれません。共通のキーワードは「名医」。編集者が見つけてくれました（笑）」

島民Vol.44.indd 16　12/02/22 3:49

上方講談師・旭堂南海の

シマノネタ

第十六回

大川に流れ着いた化けもの。

松山ケンイチが主演、何かと話題になっている大河ドラマ『平清盛』だが、平家全盛の京で、源氏ながらも生き続けたのが源頼政。歌も上手、弓矢も巧者。しかし世の中は平家一門にあらずば人でないとまで言われたご時世、位は高くなかった。「王家の犬」が平家なら、その犬にシッポを振らざるを得なかったのが頼政であろう。

すると、近衛天皇在位の時、夜な夜な不気味な怪物が、丑の頃になると天皇の御殿上空、黒雲の中で鳴いたので、天皇は病になった。「あの化け物を射落とす勇気ある武士はおらぬか」との仰せに、平家の武士たちは「万一しくじったらエライ恥をかく」と、誰も手を挙げぬ。どころか「源氏者が一人おるではないか」と、源頼政を推挙した。

頼政は仕方なく、家来の井早太（いのはやた）に「射損じたら俺は死ぬ覚悟だ」と伺候し、深夜になるのを待つと…果たせるかな黒雲の中に化け物の影。「南無八幡大菩薩！」と念じて頼政は矢を放つ。すると、断末魔の声と共に化け物が地上へ。よくよく見れば、顔は猿、体は狸、尾は蛇、手足は虎、鳴き声は鵺（ぬえ）に似た化け物であった。

前フリが長くなったが、ココからである。『平家物語』には「かの変化の物をば、うつぼ舟に入れて流されける」とある。賀茂川を下流へ。岸に留まれば、住民は怖いから棒で突いて、流れに乗せたに違いない。淀川から今の大川へ入り、都島まで来たという。

「死んだら化け物でも葬ってやらんと可哀想やがな」「別に何をしたっちゅうわけでもないのに射殺されて…」と地元の人が埋葬し、お墓を作った。それが今も都島の住宅街の中にひっそりとある「鵺塚」である。

都島駅からほど近い都島本通３丁目に、ぽつんとある「鵺塚」。ただ、花が生けられ、地元の人からは愛されている様子が伝わる。

きょくどう・なんかい
１９６４年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前（１９８９年）に三代目旭堂南陵に弟子入り。１９９８年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天満宮霊験記」など。

島民Vol.44.indd 17 12/02/22 3:49

第六話

工業と工芸の幸せな関係。

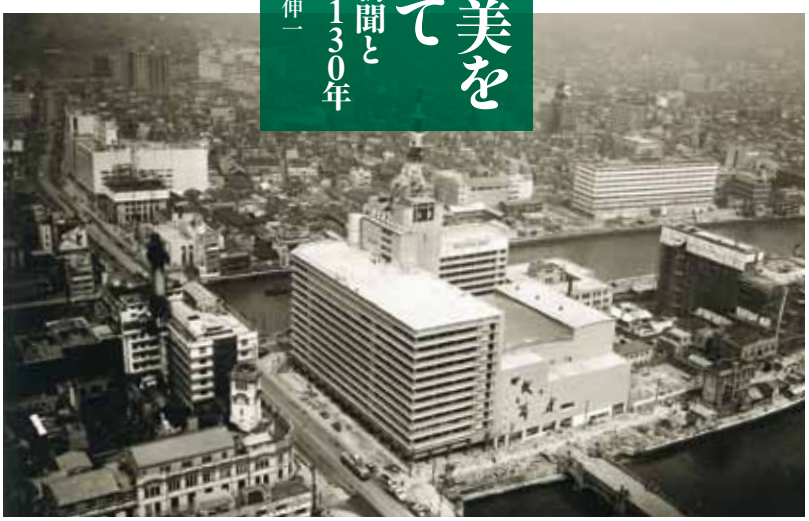
1958

都市美を伝えて
―朝日新聞と中之島の130年

取材・文／髙岡伸一

日本が戦後の復興期を経て高度経済成長期に突入すると、大阪でも昭和30年代半ば頃から、本格的なビルの建設ラッシュがはじまる。中之島では新朝日ビルディングがいち早く、昭和33年（1958）に完成、島からはみ出そうな巨体は「超マンモスビル」と呼ばれた。当時の建築基準法では、建物高さが最高31m（100尺）に制限されていたため、ビルは上へと伸びるのではなく、敷地一杯に横へと膨らんだ。しかも新朝日ビルは公共歩廊などを設けることで特別な許可を得て、当時日本最高の45m、屋上のアンテナを含めると地上から100mを超えるという、日本最大規模を誇るビルだった。

さらに新朝日ビルは、オフィス、ホテル、店舗に加えて放送局、そして屋上にはヘリポート、何より3千人を収容する国際クラスのフェスティバルホールを備えた、超複合建築でもあった。様々な目的をもって1万人近くの人が出入りする、まるで都市のような建築。その複雑なプロジェクトをまとめ上げたのは、竹中工務店の当時の設計部長であった小川正。彼は復興期から高度経済成長期にかけて、劇場や映画館、オフィスやホテルといった都市建築を数多く手がけた、戦後日本の都市形成を支えた知られざる名建築家だ。



新朝日ビルの巨大さがよくわかる、竣工当時の中之島周辺の風景。同じ1958年に完成した堂島川沿いの新ダイビル（写真右奥）と、四つ橋筋沿いの毎日大阪会館南館（写真左奥）がみえる。
写真提供／株式会社朝日ビルディング

新朝日ビルの外観の特徴は、何といってもメタリックな光を放つ外壁一面のアルミパネル。工場で一枚ずつプレスされたパネルは、四つ橋筋を挟んで建つ朝日ビル（1931年竣工）のデザインの継承であり、近代的な建設技術が追い求めた工業化のシンボルであり、何より当時の男の子なら誰もが思い描いた、未来都市のイメージだった。

一方、土佐堀川に面したホールの南面には、タイルの壁に「牧神、音楽を楽しむの図」と題されたレリーフが踊る。行動美術協会の彫刻部が信楽で制作した。工業化のシンボルとして光輝くアルミパネルと、神話にモチーフを得た工芸的なレリーフ。相反するようにもみえる二つの要素の共存、工業と工芸の幸せな関係は、この時代のビルの大きな魅力であった。

新朝日ビルの完成を待って開催された大阪国際フェスティバルを皮切りに、フェスティバルホールでは数多くの名演が繰り広げられ、親密な空間は人々に愛されてきた。終演後に観客が建物の前に残って余韻に浸る光景は、中之島を彩る最高の都市風景だった。ブラジル音楽が好きな私にとっては、2004年のジョアン・ジルベルト、そして翌年のカエターノ・ヴェローゾの来日コンサートが今も心に残る。

私事を重ねて恐縮だが、私は多くの朝日の名建築の中で、そして大阪に建つビルの中で、この新朝日ビルが一番好きだった。子どもの頃、九条にある祖母の家から家族の車に乗って自宅のある吹田に帰るとき、車の窓からいつも黒光りする不思議なレリーフと、メタリックなボディをぼんやり眺めていた。その記憶に焼き付いた光景は、今の私に少なからず影響を与えている。

NAKANOSHIMA FESTIVAL TOWER
中之島フェスティバルタワー

提供／株式会社 朝日ビルディング
http://www.asahi.com/festivaltower/

トウミン月報

2012年3月1日発行

絵で川柳で写真で中之島を表現しよう！

中之島を歩けばスケッチをする人や写真を撮る人をよく見かける。そんな絵になる中之島を芸術で表現するイベント「キテ・ミテ 中之島」が開催される。絵画、川柳、写真の3つの部門にわかれて作品を募集。4月15日（日）～5月6日（日）には、出品作とアーティストの作品をコラボレーションして展示する「キテ・ミテ 中之島 ミテ・キテ ミュージアム」も行われる。

出品してみたいけれど自信がない…という人のために、作品を一緒につくる講座が開催されるのが嬉しいところ。楽しみながら作品をつくって、エントリーしてみよう。（大迫力・本誌）

絵画&川柳募集!

「絵画部門」「ちびっこお絵かき部門」「川柳部門」の3つの部門で作品を募集します。期間／3月1日（木）～31日（土）　テーマ／●絵画部門「中之島のいい風景」　●ちびっこお絵かき部門「なかのしまってどんなとこ?みんなでみつけよう!」※4歳～小学生対象　●川柳部門「感じるままに中之島」　応募サイズ／●絵画部門:ハガキサイズ（100mm×148mm）～F6サイズ（409mm×318mm）　●ちびっこお絵かき部門:四つ切り画用紙サイズ(380mm×540mm)　●川柳部門:ハガキ　作品応募方法／作品裏面に①郵便番号②住所③氏名（ふりがな）④ペンネーム⑤電話番号⑥年齢⑦学生の方は学校名と学年を明記し、下記まで応募。〒540-6591　マーチャンダイズビル内郵便局　私書箱35号 京阪電気鉄道株式会社　鉄道企画部「キテ・ミテ 中之島募集係」

「カイテ・ミテ 中之島」スケッチ大会

中之島の風景を思い思いのタッチで描いてください。講師によるアドバイスも。　日程／3月23日（金）・25日（日）※雨天中止　集合／中之島駅改札口前　0:30PM（3時間程度）　持ち物／スケッチブック（F6サイズまで）、画材（水彩絵の具、色鉛筆、クレヨン、サインペンなど）　参加料／無料　定員／20名（要事前申込）　申込締め切り／3月12日（月）

「トッテ・ミテ 中之島」ピンホール写真ワークショップ

レンズではなく針穴を通して味のある写真を撮ります。　日程／3月20日（祝・火）と24日（土）の2日間連続プログラム　※雨天決行　集合／中之島駅改札口前　0:30PM（3時間程度）　持ち物／三脚（お持ちの方のみ）　参加料／1,700円　定員／ペア10組（お一人様でも参加可能です。要事前申込）　申込締め切り／3月12日（月）

イベント応募方法

往復はがき又はメールに①郵便番号②住所③氏名（ふりがな）④電話番号⑤生年月日⑥年齢⑦参加希望イベント⑧参加希望日⑨参加人数を明記し、下記まで応募。kitemite-nakanoshima@ml.keihan.co.jp　※ハガキは上記と同じ。返信用ハガキにご自身の宛名を記入

◎詳しくは駅のチラシまたはホームページをご覧ください。
お問い合せ／キテ・ミテ 中之島事務局☎06-6944-2736
www.keihan.co.jp

久坂部羊さんの新刊は渾身の大長編

久坂部羊『第五番』
（幻冬舎・1,980円）

本誌連載「中之島ふらふら青春記」（P14）が大人気の作家・久坂部羊さんの待望の新刊『第五番』が発売された。「誰より医者が、激烈な疫病を望んでいる」という帯のコピーがなんとも強烈。プロローグでは1967年のドイツを襲ったエボラ出血熱をはじめ、20世紀半ばから21世紀にかけて起こった疫病と、その後の政府や医療機関の対応を紹介。その上で「これら四つの疫病と、医療状況改善は偶然だろうか」とささやくのだから、いきなり背筋がゾクッとする。

突如日本で同時多発した「新型カポジ肉腫」という新たな疫病と、それによって巻き起こるパンデミックが今作の大テーマ。恐れおののく市民や、なんとか収束を試みる医師、混乱の背後にちらつく黒幕の存在…。本作は著者の第3作『無痛』の続編でもあり、患者を見ただけで病名がわかる天才医師・為頼英介や、先天性無痛症の青年・イバラなど、異彩を放つ前作の登場人物たちも引き続き物語に加わる。為頼はオーストリア・ウィーンの診療所に勤めており、日本とウィーンを結ぶ壮大なスケールにも注目だ。メディカル・ホラーと呼ばれる月刊島民とは全く違うシリアスな物語は、原稿用紙990枚という大長編作。心して味わうべし。（大迫力・本誌）

アイルランドのお祭りが中之島で開催

大阪から飛行機で約14時間、アイルランドのお祭りが本国を飛び出し中之島で開催される。アイルランドでは「セントパトリクスディ」という祝日に、国のシンボルカラーである緑色やシャムロック（三つ葉）を身につけた人々がパレードし、街じゅうを緑色で染め上げるお祭りがある。春の訪れを予感させる伝統行事で、アイルランド国内では盛大に行われる。

3月17日に中之島公園にて開催される「アイルランドフェスティバル」は、その行事にちなみ、アイルランドに親しみを持つボランティアの手で作り上げられたもの。華やかなパレードやダンスを見て楽しむだけでなく、アイリッシュフードやギネスビールを味わえるパブはもちろんのこと、珍しい民族楽器を用いたアイリッシュ音楽ライブも楽しめる。企業や公共機関などにおいて諸外国との交流が見られる中之島だが、アイルランドとは珍しい。文化に触れることのできる貴重な機会だ。（江口由夏・本誌）

中之島公園 アイルランドフェスティバル2012 in大阪
日時／3月17日（土）11:00AM～　荒天の場合中止
入場料／無料　問い合わせ／INJ大阪☎050-5534-8695
http://www.inj.or.jp/　※料理の写真はイメージです。

島民Vol.44.indd 19　12/02/22 3:49

取材・文／杉岡ちず子

中之島を駆けめぐる韓国映画があった。

中之島周辺が描かれた映画として有名なのは、宮本輝の小説が原作の小栗康平監督「泥の河」（1981年）だろう。2011年には台湾で最も有名な映画祭「台北金馬影展」で80年代の日本を代表する作品として、「蒲田行進曲」などと共に上映された。そんな中、昨年3月に新たに中之島で撮影された映画があった。

韓国と日本の合作映画「大阪のうさぎたち」。原因もわからず半年で人類の過半数が滅亡、異常なまでの危機的状況の中、秩序を維持し普通に生活を送る都市が存在するという。そしてそれがなんと大阪だった！　さらに海を渡って二人の男女がやってきたのが中之島というから、驚きのストーリーである。

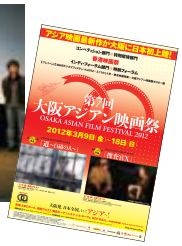
ルーカス映画祭で最優秀監督賞を受賞した経験もある、韓国のイム・テヒョン監督が即興で撮りあげたという本作品。役者のアドリブも多く、ドキュメンタリータッチに描かれている。新鋭監督目線による作品は、見慣れた街がまるで外国のように見えてくるから不思議だ。アングルの妙もあり、京阪電車の中之島駅が驚くほどにスタイリッシュに見える。

その駅の階段を颯爽と駆け上がっていた主演俳優のミン・ジュンホさんに中之島の印象を聞いてみた。「撮影中はここが島だとは気づかなかったんです。ビルの中に静かな川が流れ、月が川面に反射する様子が好き。ミステリアスだけど落ち着く」。リーガロイヤルホテルでの撮影の後は、すっかり同ホテルのファンになったそう。賑やかな大阪にあってここだけ別世界、ホテルの方が親切で気持ちが良いのも好きな理由のひとつ。

この映画をはじめアジア各国から届く最新映画が上映される「第7回大阪アジアン映画祭」が今年も3月9日より開催。「大勢のゲストが集結し、期間中は大阪がまさにアジアの首都と化す感じですね」と話すのはプログラミング・ディレクターの暉峻創三氏。「ここで映画祭を開催するからには、同じ島民として島を活気づけたい」と話してくれた。

アジア映画の第一人者で、大阪アジアン映画祭プログラミング・ディレクターである暉峻創三さん。大阪は東京ほど整然としていないのが良いのか、アジアの監督を“撮らせる気”にさせる街だという。

月刊島民も気に入ってくれた様子のミン・ジュンホさん。2004年から韓国で映画やドラマに出演、２年連続で主演映画が本映画祭で上映される。最近では大阪を拠点に活躍の場を広げ、松本人志のお笑いが好きだと言う彼は早く大阪弁を覚えたいと目下勉強中。



第7回大阪アジアン映画祭

期間／3月9日（金）～18日（日）

ABCホールをメイン会場に、九条シネ・ヌーヴォや梅田ガーデンシネマなどその他市内の各会場にて開催。昨年は開催中に東日本大震災が発生、復興へのエールとも言うべき東北映画特集もプレイベントとしておこなわれる。詳細はオフィシャルサイトにて。http://www.oaff.jp

島民Vol.44.indd 20　12/02/22 3:49

取材・文／狩野哲也
写真／李 宗和

寝屋川市

碇 浩二さん・薫さん

自分たちの住まいの理想を、生活しながらコーディネイトしていく。

寝屋川育ちの浩二さんは10年ほどアパレル業界で働き、独立後の2001年に女性向けのアパレルショップ［calm］を香里園で開店した。一方、奥さんの薫さんも寝屋川育ち。［calm］の天満橋店で働いているため、京阪電車で通勤しており「シティモールの地下にある生鮮売り場の野菜が新鮮で、火曜日が安いからスタッフとまとめ買いしてますよ」と語る。

家を建てたのは2011年4月。それまでは隣の学区の借家に住んでいたが、「年々犬が増えるから手狭になってきて（笑）」。放し飼いができる物件をあちこち探したところ、寝屋川沿いの今住んでいる場所を見つけた。「ここなら面白いものが建ちそうと感じたんです」。面白そうと感じた理由は、奥行きが28mもあり、思った以上に広かったからなのだそう。中庭をつくることで犬が通行人に吠えることもなく、家を楽しむことができると考えた。確かにこの家の構造を活かして、碇夫婦

道路に面していない中庭なので、夏は視線を気にせず子どもたちのプールになる。

台所の土間を低くして、中庭から犬が台所経由でリビングに上がって来れるようになっているからご飯タイムはいつもにぎやか。

夫婦ともに寝屋川生まれという碇夫婦。浩二さんは香里園にあるショップ［calm］（http://www.calm-2001.com/）のオーナー兼家具デザイナー。今月には［calm］は10周年を迎え、リニューアルオープンするそう。

島民Vol.44.indd 21 12/02/22 3:49

は寝屋川ライフを楽しんでいる。

例えばアイランドタイプのキッチン。「料理をつくってすぐに出せるのがうれしいです。家族全員がおしゃべりなので、よく学校のこととか職場のこととかキッチンをはさんでおしゃべりしますよ」。将来的には大きくなった娘さん2人と一緒にキッチンに立って料理がつくれるかも、と夢が膨らむ。

一番のお気に入りはやっぱり中庭。温かい季節はバーベキュー会場になることもあり、職場のスタッフを呼んでお誕生日会や歓迎会をすることもあるそうだ。中庭と直結しているお風呂は薫さんの要望でネコバスタイプ。ここでワンちゃんたちを洗い、中庭で乾かし、リビングで遊びまわることが日課だ。

そのリビングの壁は家族で塗った。

室内の窓を増やしたことで日中は光が部屋に入り、電気をつけなくても明るい。「快適すぎて2階の寝室で寝るよりもここで過ごすことが多く、娘と川の字になって寝ることも」と浩二さん。今後は奥の庭を日本庭園風に手入れしたい、と楽しみはつきない様子。

「密集している住宅地じゃないから、犬の鳴き声を気にしなくて良いのが良かった」と浩二さん。静かな場所だったこともポイントだったそう。自分たちの理想が反映できる家をうまくコーディネートし、住みながら家を仕上げていっているようにも感じられる。

上／家具デザイナーの浩二さんご自身がつくったテレビ台になる収納。calmの店頭などで商品になる前に、使い心地を家で試すこともあるそう。下／薫さんの要望で選んだ猫足付きのバスタブ。洗面台もお気に入りだとか。

Data 京阪電車寝屋川市駅から徒歩で15分程度の一軒家。2011年4月に新築を購入。奥行きが28m、幅が4.5mの2階建て。中庭、駐車場あり。犬5匹（ブルドック2匹、フレンチブル2匹、キャバリア1匹）を放し飼い。居間ではメダカも水槽で飼っており、2階でも飼っているというからペットが暮らしやすい家でもある。

うちの近所のお気に入り。

家の近所を流れる寝屋川

「子どもの頃はもっと汚かったのですが、整備されてきれいになった結果、カモやサギなどがやってくるようになったんです。1mほどの大きさの鯉が泳いでいたりしていて、川沿いは犬の散歩コースですね」と浩二さん。寝屋川沿いに国営淀川河川公園、府営寝屋川公園、打上川治水緑地、寝屋川緑地のような大きな公園も点在していて、犬を走らせる遊び場として最高のロケーションだとか。

島民Vol.44.indd 22 12/02/22 3:49

今月のテーマ【ホテルマン&ウーマン】

ホテル特集にちなんで、中之島周辺のホテルで働く人たちをご紹介。
笑顔と共に、制服もまたお客様を出迎える大切な要素なのだ。

取材・文・写真／李 宗和

審査員／大平秀峰（ひでみ）さん
［NAKAGAWA1948 尼崎店］店長

淀屋橋にある島民にはおなじみのテーラー［NAKAGAWA 1948］の、尼崎店の店長を勤める大平さん。正確無比の採寸テクニックは“ゴッドハンド”の異名も。アマからシマを見つめる。☎06-6417-3506

リーガロイヤルホテル

ベルガール 齋賀 由梨さん（20）

チェックインの手続きが完了したお客様を客室までご案内しています。入社して約1年。最近は常連のお客様のお顔も覚えてきて、「いつもありがとうございます」と挨拶もできるようになってきました。これからもホスピタリティあふれるサービスができるよう頑張ります！

コンシェルジュ 山本 健二さん（38）

あらゆる要望に応えたご案内をする仕事なので時間があれば街にでて最新情報を得るようにしています。また、中之島の魅力を知っていただくため中之島図書館に籠もり歴史文献を勉強したことも。情報誌にはない今昔織り交ぜたご案内を工夫しています。

ベルガールの方の制服は、着丈・袖丈がやや短く、スカート丈も膝上で、動きやすくかつ手足が長く見える美しいデザインになっています。一方、コンシェルジュの方のロングジャケットは袖口もゆったりとして、優雅で知的な安心感があります。役割や業務によって使い分けているのでしょうね。

大阪キャッスルホテル

フロントスタッフ
藺牟田（いむた） 汐世里（しおり）さん（28）

チェックイン、チェックアウトの対応、予約の受付などを行っています。近年この地が観光地として注目されているのを感じます。花見ツアーや水上観光などのエージェントと企画する宿泊プランなども好評で、外国人の方からの問い合わせも増えましたね。

宴会場ホールスタッフ
岡崎 由季夫さん（44）

宴会場でテーブルのセッティング、お給仕、片付けが主です。気持ち良く食事をしてもらうため、制服から爪の先まで身だしなみには非常に気を遣っています。場所柄、美しい大川の景色とともにサービスできることに、何よりもやりがいを感じます。

女性の方の制服は、シャドーストライプのソフトなスーツに、シフォン系のスカーフが好アクセント。大川のそばを意識してでしょうか。ホールスタッフの方のタキシードも、「ザ・ホテルの宴会場の方」という感じで様になっていますね。すみません、ビール、お願いします。

ホテル京阪 天満橋

フロントスタッフ
奥 妙華さん（26）

ビジネスホテルのフロントは宿泊客の到着、出発の対応も行う重要な仕事です。だからこそ、どんなに忙しくても笑顔を欠かさないサービスを心掛けています。仕事での楽しみはやっぱりランチタイム（笑）。北浜をはじめ周辺に良いお店が増えましたしね。

フロントスタッフ
大野拓矢さん（26）

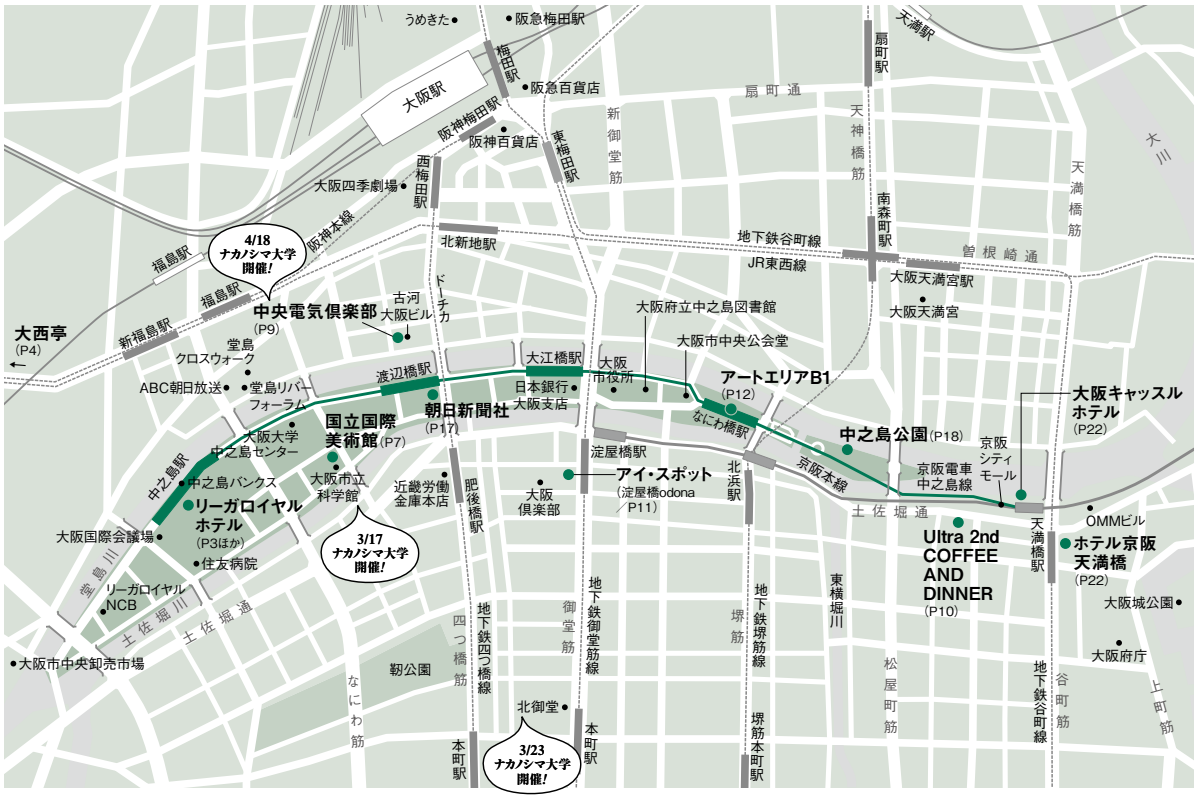
当ホテルではフロントで宿泊された方に京阪電車の片道切符サービスを提供しています。最近では若い人の利用も多く「どこかいい場所ないですか？」と尋ねられることもよくあります。そんな時は見どころ満載の中之島方面の切符をおすすめしています。

こちらは男性も女性も英国風のトラッドなジャケットスタイル。大ぶりの金ボタンですが、ジャケットがしっかりした生地に見えますから、これくらい存在感があってもよく映えます。パイロットや運転士さんのようなユニフォームですね。良いお迎えをしてくれそうな印象です。

島民Vol.44.indd 23 12/02/22 3:49

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

●京阪電車関連　京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

●大阪市北区・中央区・福島区　［書店］旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛堺書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店

［公共施設・大学関連施設など］アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素　食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院　大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町

［店舗・医院など］アリアラスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／ Ultra 2nd ／江戸前鰻料理 志津可／ EXPO CAFE ／MJB珈琲店／大西洋服店／ＯＯＯ（オーー）／カセッタ／喫茶カンタータ／喫茶SAWA ／グランスイート中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／じろう亭／Girond's JR ／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タピエスタイル／ティーハウスムジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／ NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／パストラーレ／花かつ／ BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラ・クッカーニャ／ LES LESTON

●大阪市内その他　［書店］伊勢屋書店／大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ルーブル書店　［公共施設・大学関連施設など］大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館　［店舗・医院など］あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリバール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Calo Bookshop and cafe ／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルピコ／ホステル64オオサカ／ MANGUEIRA ／ Loop A

●大阪府下　旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／ Books 呼文堂／水鳴書房 くずはモール店／水鳴書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・社学連携事務室／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ

●大阪府以外　ジュンク堂書店 新宿店／ジュンク堂書店 西宮店／水鳴書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通りストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シンプソン／百練／奈良県立図書情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円（手数料）でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告　職人の仕事を訪ねる。

中之島に企業やビジネスマンが多いのは知っているけれど、「職人」は？
実はたくさんいるのだ。知られざるその仕事ぶりと技を、訪ねてみよう。

●『月刊島民』vol.45は2012年4月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作　綱本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創　大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340　Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

島民Vol.44.indd 24　12/02/22 3:49

月刊島民 中之島 44号 2012年3月1日発行 編集・発行人／江 弘毅（140B） 編集・発行／月刊島民プレス 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

三十三間堂　楠葉けい子（大学生）

おけいはん、平清盛の三十三間堂へ

おけいはんと平清盛

京都にある清盛ゆかりの地をめぐって、京阪電車で。

新熊野神社　法住寺　三十三間堂　六波羅蜜寺　六道珍皇寺　建仁寺　八坂神社　長楽寺
橋寺（放生院）　宇治川先陣の碑　平等院　石清水八幡宮　比叡山延暦寺　鞍馬寺　寂光院
祇王寺　滝口寺　法輪寺

詳しくは京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。

※三十三間堂本堂内の撮影は特別な許可を得ております。通常は撮影禁止となっておりますのでご注意ください。

京阪のる人、おけいはん。

www.okeihan.net